

1 情勢報告

○ユズの幼木の防寒対策講習会を開催（12月9日）



ユズの防寒対策の様子

JA津野山ユズ部会は、ユズ幼木の防寒対策講習会を津野地区5ヶ所で開催し、40名の生産者が参加しました。

講習会では、JA担当者が今後の栽培管理の説明を行い、振興センターもそれを補足し、幼木管理の実演も両者で行いました。

ユズ苗木導入から4年目となり、おおよその管理は理解されており、なお確認のために参加している方もおりました。

今後とも振興センターはJAと連携しながら、安心してJA馬路村に出荷が出来る産地づくりを支援していきます。

○JA土佐くろしおニラ部会の現地検討会を開催(12月14日)



須崎市中氏での現地検討会の様子

ニラ現地検討会が、須崎、葉山地区ほ場と中土佐地区の篤農家ハウスにおいて開催され、参加者は合計22名でした。

JA担当営農指導員が篤農家の栽培概要について説明し、篤農技術として厳寒期の管理作業の要点も紹介しました。併せて営農指導員と振興センターから新規登録農薬や登録予定農薬の取扱上の注意点や厳寒期の管理作業の要点等も説明しました。

特に厳寒期には、白斑葉枯病の発生に注意が必要であることが確認されました。保温の仕方や農薬の使い方等の質問があり、参加者同士の情報交換がされていました。

振興センターでは今後ともJAと連携し、現地検討会等において篤農技術の移転と併せた栽培技術指導により、生産安定を図ります。

○JA土佐くろしおハウスシシトウ部会の勉強会を開催(12月2日)



低辛味シシトウの比較を行う生産者の方々

ハウスシシトウ勉強会が、JA土佐くろしお大間出荷場2階で開催されました。

今園芸年度は、須崎地域のシシトウで、定植直後にウィルス病の発生が見られました。勉強会ではウィルスの種類・感染経路、そして栽培中と次作の対策について、真剣に検討がなされました。

また、今園芸年度から低辛味シシトウに新たに取り組んでいます。県育成の低辛味シシトウ3品種と現行の‘葵ししとう’の4品種の生育状況について比較検討が行われました。また実際に果実の果形・果色について比較検討した後、参加者自らかじって辛味果の有無を確認しました。

振興センターでは今後とも、栽培技術の向上による収益性の向上のための支援を行っていきます。

1 情勢報告

○JA土佐くろしおミョウガ部会の現地検討会を開催（12月14日）



中氏地区の現地検討会の様子

平成24園芸年度の第1回目のミョウガ現地検討会が須崎市池ノ内地区と中氏地区で開催され、34名の生産者がほ場主の篤農家と栽培管理の情報を交換しました。

篤農家からは、11月下旬～12月上旬の曇雨天に対して栽培管理を工夫した点や、作型に応じた管理などが紹介され、参加農家と意見が交わされました。

JAと振興センターからは、今園芸年に発生した発芽不良に関する原因と対策を説明しました。また生育初期の栽培管理については温度管理事例などを紹介しました。

今年度の現地検討会は3回計画されています。参加農家の情報交換が活発となるようにJAと連携して現地検討会の開催を支援します。

○JA土佐くろしおキュウリ部会の現地検討会を開催(12月8日・16日)



現地検討会の様子

JA土佐くろしおキュウリ部会現地検討会が、12月8日と16日に須崎地区の篤農家4圃場で開催され、両日で43名の参加がありました。

検討会では、地区担当営農指導員から篤農家の現在の栽培管理等について説明があり、その後、種苗会社や営農指導員、振興センターより厳寒期管理について説明が行われました。

特に本年は、キュウリ栽培にとって厳しい気象条件であり、今後の管理も非常に重要であることが再認識されました。

振興センターでは今後とも関係機関と連携し、現地検討会を継続的に開催し、篤農技術の移転や栽培指導により、安定生産に向けて支援していきます。

○JA土佐くろしおピーマン部会の現地検討会を開催（12月15日）



現地検討会の様子

JA土佐くろしおピーマン部会現地検討会が、須崎地区の篤農家は場で開催されました。

本園芸年度は、9月・11月の日照不足や前園芸年度に引き続きうどんこ病の防除に苦戦する収穫初期になりました。

現地検討会では、「今年の気象状況」や「仕立て方法が生育・収量に及ぼす影響」「IPM技術の確立」「ピーマンの蒸発散量に応じたかん水管理」についての検討がなされました。

特に、土壌水分計（pFメーター）を用いたかん水管理方法については、生産者の方から活発に意見や質問が出て、設置方法・数値の読み取り方など細部まで検討がなされました。

振興センターでは今後とも、栽培技術の向上による収益性の向上のための支援を行っていきます。

1 情勢報告

津野町直販所の農産物加工商品づくり講演会の開催（12月7日）



道の駅布施ヶ坂直販所は、津野町役場西庁舎で、津野町内の直販所に加工品を出荷している農家を対象に「地域の食材を活かす確かな商品づくり研修」を開催しました。講師には農水省が選定した「地産地消の仕事人」山際博美氏を招き、農家38名が出席して農産加工技術、商品造成の方法を学びました。

また研修と併せて、道の駅布施ヶ坂直販所が山際氏の指導のもとに開発した地域農産物ジェラートの試作品5種類についてモニター試食も行いました。

受講者からは初めての加工技術や地域素材のジェラートの意外な美味しさへの驚きの声がかかれ、熱心な質疑、意見交換が行われました。

振興センターでは、今後もこのような農業の6次産業化にかかる農家の動きをサポートしていきます。

津野町の直販所出荷用ミニハウス栽培品目の勉強会を開催（12月13日）



津野町は、平成21年度から補助金事業により推進している「直販所出荷用ミニハウス」を導入した農家を対象に栽培品目の勉強会を開催しました。

会には農家20名が出席し、ミニハウスの利点を活かした作目や作型について振興センター、町の技術アドバイザーから説明した後、一昨年からは栽培を始めている農家から成功事例や失敗事例の体験談の紹介とそれらをふまえた栽培技術のポイントについて意見交換が行われました。

町では、この勉強会に引き続いて12月下旬に今年初めて栽培を開始する人への個別栽培指導を行う計画を立てています。

農産物直販所は中山間地域での大きな収入源になりつつあります。

振興センターは今後も直販所出荷拡大を推進していきます。